

生産者・加工業者を訪ねて 第1回

「幻の黒千石」を北海道北竜町で

黒千石事業
協同組合



～生産者・加工業者・消費者の思いを繋ぐ～

第1回は、黒千石事業協同組合 高田理事長を訪ねました。北海道が原種である黒千石大豆は、昭和45年以降、栽培が途絶え、「幻の黒千石」と呼ばれていました。それを北竜町において、35年の歳月を経て栽培に取組、平成19年に「黒千石事業協同組合」が設立されました。高田さんは、現在その理事長職にあり、栽培と加工の先頭にたっています。



黒千石の畑

Q:なぜ、栽培されなくなったのでしょうか？

A:黒千石は茎が弱くすぐに倒れてしまい手間がかかり、栽培が難しい品種なのです。また、積算温度（播種時期から成熟までの毎日の気温を足した温度のこと）が高く、通常の大豆よりも日照時間が必要なため、天候に左右されることも理由の一つです。



Q:現在、力をいれ取り組んでいることはありますか？

A:安定した栽培に向けて、品種改良に取組み、その結果、茎が強くなり、収穫時期も早くなり、収穫量の増加が見込めるようになりました。

Q:なぜ、「品種改良」に取り組もうと思ったのですか？

A:品種改良の前までは、収穫時期の降雪などに悩まされました。黒千石は、アントシアニンなどの含有量が高く栄養に富み、また食味においても、甘く美味しいという特色、その『味・栄養』など、黒千石の良いところが全く変わらないのであれば、茎は強く、収穫量は多く、雪の心配がない新しい品種のほうが、みんな笑顔になれる。生産者・加工業者・消費者、沢山の方が笑顔で黒千石を何年も先まで生産していくために、取組むことを決めました。

Q:これからの目標は？

A:これからの「食」は安心・安全がキーワードとなります。私たちは、農薬を北海道基準の半分まで減らして、特別栽培大豆と認定されています。HACCPの知識も積極的に深める為、研修等にも参加し、今後に向けて準備をしています。また、今回の地方創生事業の中で、安心・安全な黒千石を学校給食にも提供しており、さらに、地域の福祉施設や医療施設などでも利用してほしいです。この栄養価が高く、安全・安心な黒千石をより広い市場開拓に向けて取組んでいくため、ホームページも開設予定です。これからも、地域に「笑顔」が広がるよう、頑張りたいです。



収穫量・時期の安定をよりよく実現させるため、
新しい品種の黒千石を試みている。
生産者・加工業者・消費者、多くの方が笑顔でいれるように・・・
と高田理事長はお話してくれました。